

課題名:「リカステ」の安定開花技術の解明(報-1)

担当部署:岐阜県中山間農業研究所 中津川支所

担当者:浅野 正

予算区分:県単

1. 目的

全国的にも生産量が少ない蘭「リカステ」は、中山間地域で栽培が始まっているものの栽培技術などの知見が少なく、効率的な栽培技術が確立していない。特に、花芽分化などの生理的特性は不明な点が多く、今後の生産普及のための技術確立が望まれる。

ここでは確実に花芽分化させるための条件を解明するために、開花リードの生育パターンと、開花数との関連を明らかにする。

2. 方法

(1)試験場所 支所内花き硬質ビニールハウス(夏期は雨よけハウス)

(2)供試品種 「星の王子様」「びよ」「HB」 全品種メリクロン繁殖、1品種10鉢

(3)耕種概要

①供試株:前年開花しバックバルブを有する成熟株

鉢上げ日:平成25年4月15日(3.5号黒プラスチックポット)

②培養土:杉皮単体(地域の製材所から排出される廃材)

③施肥:平成25年4月15日、ロング肥料(ハイコントロール180日タイプ)2g/鉢

④灌水:表面が乾いたら手灌水

⑤遮光:遮光率40%のネットを3月から10月まで展張(冬期は晴天日のみ遮光)

⑥温度:最低温度12℃で加温(10月中旬~4月下旬)

(4)調査項目・方法

①開花バルブの生育調査(バルブの厚みの最大値を定期的に測定)

②新芽の分解調査(開花バルブの基部に着生する新芽の発生状況を顕微鏡調査)

3. 結果の概要

(1)開花数については、品種により大きく異なり「HB」は6.7花/鉢と多く、商品として十分な観賞価値があったのに対し、「星の王子様」は1.8花/鉢と商品としての鑑賞価値は不十分であった(図1、図2)。

(2)バルブ肥大に関しては、春から夏にかけて肥大し12月下旬には肥大が停止したが、3品種中「星の王子様」が最も早く、9月初旬には既に肥大が停止することが判明した(図3)。また休眠芽は11月11日には花芽か葉芽かの判別が困難であったが、12月31日には明瞭になった(図4)。

(3)「星の王子様」は他の品種と異なり、バルブ底部からの葉が早く(10月頃)落葉した。バルブ切片のヨウ素デンプン反応調査(11月11日に実施)の結果から、当品種はこの時点でバルブにデンプンを生成していることが判明した(データ省略)。

以上の結果から、開花数が少なかった「星の王子様」は、他の開花が多かった品種と比較して、開花リードの発生時期が早くバルブ肥大が早く完了し、11月にはバルブ内にデンプンを蓄積していることが判明した。

4. 今後の問題点と次年度以降の計画

難開花品種である「星の王子様」の開花メカニズムの解明を通して、リカステの普遍的な栽培技術の確立を目指す。

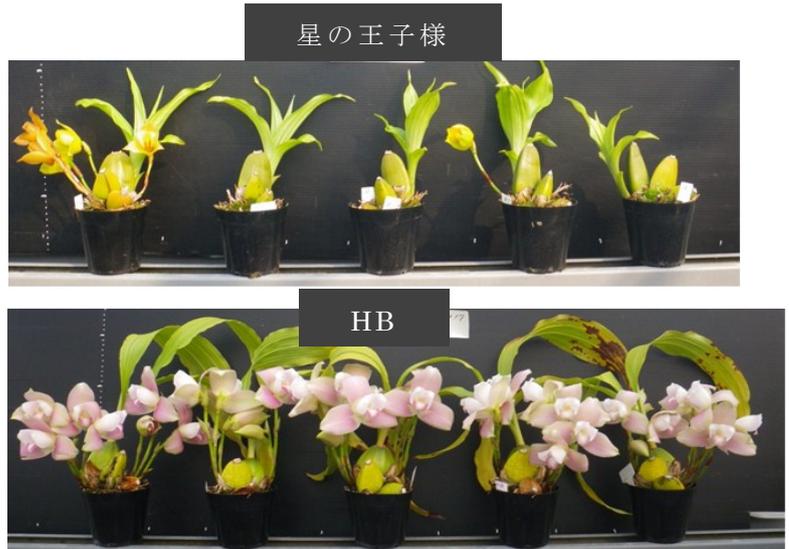
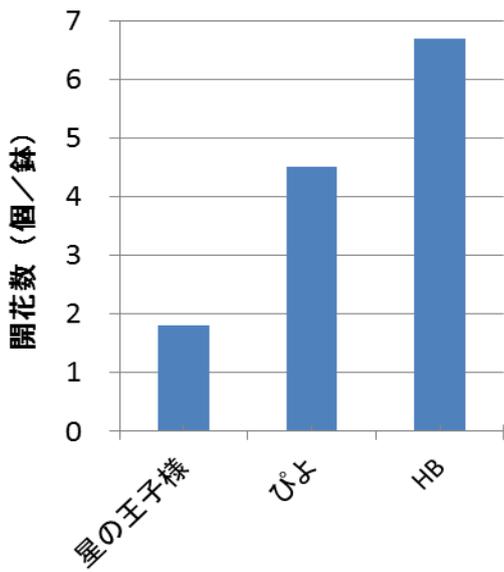


図2 開花時 (4月17日) の外観

図1 品種別の開花数

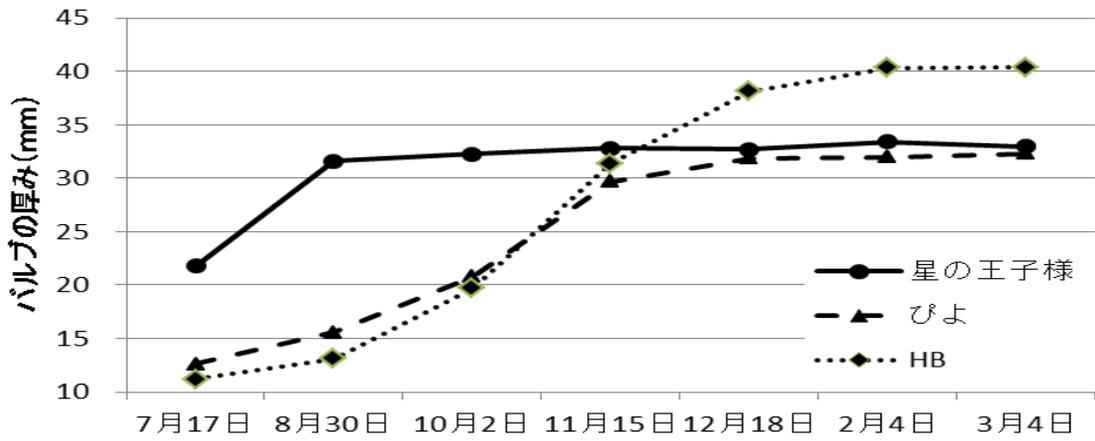


図3 各品種のバルブ (厚み) 肥大の推移

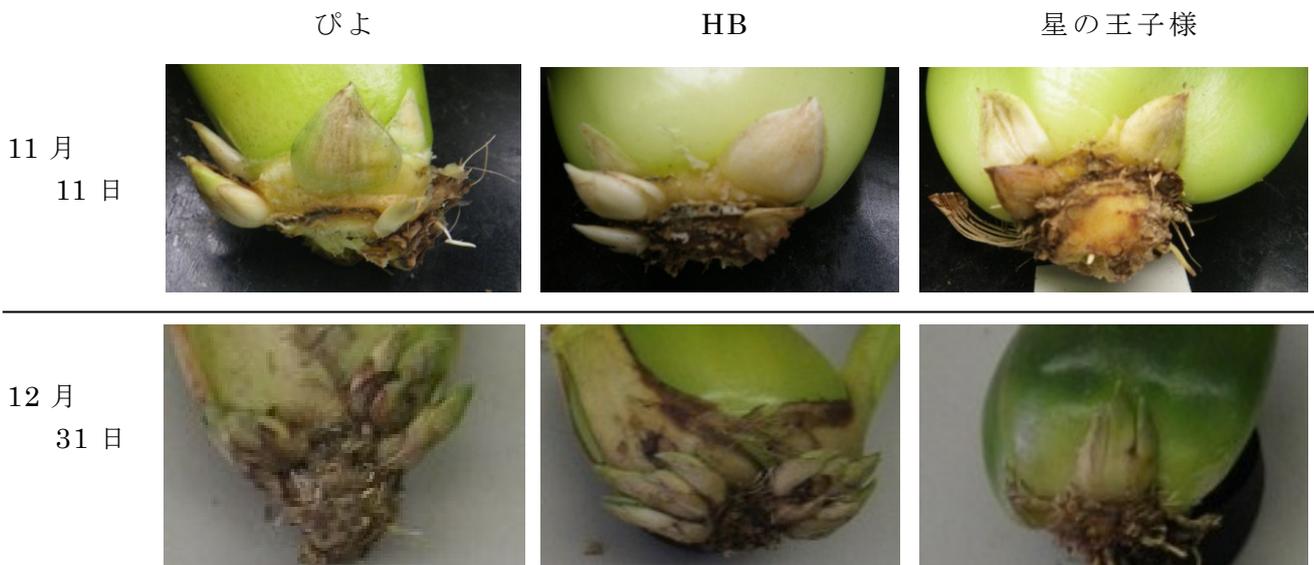


図4 各品種の開花バルブと新芽の様子